

平成 23 年度 高等学校における学校評価（自己評価）の結果報告

平成 23 年度に高等学校において実施した学校評価（自己評価）の結果を報告致します。

■学校評価の実施方法

- 1) 実施時期 平成 24 年 3 月
- 2) 調査対象 高等学校本務教員
- 3) 評価項目 教育活動全般および学校運営に係わる項目について自己評価を行いました。
- 4) 評価方法 各項目について、5 段階評価を行いました。
 - 5：その通りである（達成度 80～100%）
 - 4：どちらかと言えばその通りである（達成度 60～79%）
 - 3：どちらとも言えない（達成度 40～59%）
 - 2：どちらかと言えば違う（達成度 20～39%）
 - 1：全く違う（達成度 0～19%）

■評価の重点項目

- ◎建学の精神 報恩感謝
- ◎教育の目的 尊敬される人間の育成
- ◎教育方針 個性の尊重・実行から学べ・明朗と自主
- ◎平成 23 年度の学校目標
 1. 基本的な学習態度を身につけ、基礎学力の習得・定着を図り、学力の向上を目指す。
 2. 基本的な生活習慣、規律ある態度を養い、集団生活における社会性を身につけさせる。
 3. 将来の進路目標を見つけ、個性を磨き、目標を実現しようと努力する態度を育てる。
 4. 人権意識を高め、周囲の人を尊重し、良い人間関係を築こうとする態度を養う。
- ◎学校の重点目標とその計画
 - ①教員・教科間連携の強化
 - ア) 教育課題について教員間で日常的によく話し合っで連携を深める。
 - イ) 会議・委員会で教育課題に対して適切に協議し迅速に対応する。
 - ②学習指導の充実
 - ア) 教科指導委員会において授業の充実方策や学習指導の計画、目標の設定を行う。
 - イ) 教科会議において教科指導の充実や指導方法の検討を行う。
 - ③人権教育体制の充実
 - ア) 人権教育部において学年ごとの目標を設定し、年間の指導計画を立てる。
 - イ) 学級において日常的な人権意識の涵養につとめ、計画的な人権指導を実施する。
 - ④生徒指導の強化
 - ア) 生徒指導部と学年が連携して、生徒の規範意識を高め規律ある態度を養うよう年間の指導計画を立てる。
 - イ) 学級において基本的な生活習慣が身につくよう日常的にきめ細かく指導する。
 - ⑤学習支援の充実
 - ア) 学習の理解が遅れている生徒を把握し、放課後にも補充の基礎学習指導を行う。
 - イ) 教科の単位を修得し進級できるよう、計画的・日常的にきめ細かく指導する。

⑥カウンセリングマインドの育成

- ア) 一人ひとりの生徒に寄り添いその声に耳を傾け、抱えている問題を共に考える。
- イ) 問題を抱えている生徒に対して、教員が連携して対応し支援していく。

⑦進路指導の充実

- ア) 進路指導部が中心となって情報の提供やガイダンスを行い目標の実現を支援する。
- イ) 担任を中心として生徒の進路相談を受け目標の設定と実現に向けた助言を行う。

⑧教員の資質向上

- ア) 教員一人ひとりが自らの教育活動を振り返り課題を見つけて改善・研鑽に取り組む。
- イ) 研修の場を増やし互いの意見交換や理解・経験の共有ができる機会を設ける。

■評価結果の分析

【結果の概評】

全体としては前年度と同様の評価となっているが、いくつかの項目においては評価が低下している。生活指導の分野では、引き続き高い評価結果が得られたが、なお充実した取組みが求められている。生徒支援の分野では、学習支援・カウンセリングマインド・進路指導・内部進学いずれの項目でも高い評価結果が得られたが、その成果がやや停滞していることから、個々に応じた丁寧な指導が一層求められる。

教員はこれらの分野を中心に課題を意識し、熱心に教育活動に取り組んでいるものと言える。しかし、学習指導や生徒指導について、教員は熱心に取り組んでいると自己評価しているが、生徒・保護者による関係者評価は必ずしも高くない。このことから、教員の意欲や指導が生徒や保護者に十分理解され浸透していない部分があり、その成果をあげるためには今後とも指導内容・方法等について改善を図る必要があるといえる。

危機管理マニュアルについては、東日本大震災以降、これまでにない充実した対応策が求められているが、改善が加えられていないことが懸念されており、一層の努力が求められている。教員研修については、教員間で学びあう環境が十分に整えられていないこと、校内研修が十分実施できていないこと、また学外で研修を受けた教員の成果が他の教員に共有されていないことなど、今後改善しなければならない課題が提示されている。

【目標達成状況と方策を振り返って】

①教員・教科間連携の強化

教員間の連携・チームワークは一定程度実現したが、さらなる充実が求められる。教育課題や問題に対して一部は共通の理解をもって適切に対処することができたが、他の課題に対しては対応が十分ではなかった。組織・委員会も教育活動の推進に向けてほぼ円滑に機能したが、教育課題の成果を挙げるためにさらに充実した取り組みを図りたい。教科間の連携については新たな教育課程の実施に向けて強化を図りたい。

②学習指導の充実

分かりやすい授業の実践と学習意欲および学力の向上を目標に各教科で積極的に取り組んだ。それらの目標に対して一定の成果をあげることができたが、必ずしも十分とは言えない。今後とも、学習目標の設定、指導方法などを研究・協議し、さらにより良い授業の実践をめざし学力の向上を図りたい。

③人権教育体制の充実

人権教育部の年間指導計画や学年ごとの目標に沿って指導することができた。さらに追加して学校外の講師を招いて人権学習を実施することもできた。学級においてもホームルームの時間を活用するなど日常的な人権意識の涵養につとめた。しかし、学習活動のあらゆる場面で人権意識を育てるという点については十分とは言えない。

④生徒指導の強化

生徒指導部と学年が連携して、挨拶・マナー・服装・出席など、生徒の規範意識を高め規律ある態度を養うよう計画的に指導した。学級においては、生徒の抱える課題等をふまえて個々に応じた指導を心がけた。

その成果は現れつつあるが、さらにきめ細かく粘り強く指導を行い、生徒に規律ある生活態度と社会性を身につけさせたい。

⑤学習支援の充実

学習の理解が遅れている生徒のために、放課後の基礎学習指導を学期ごとに行った。その成果もあって、学習への意欲を少しずつ高めることができ、また年度末に教科の単位が修得できない生徒の数を抑えることができた。

⑥カウンセリングマインドの育成

担任を中心として、学年・保健室・相談室が連携して、一人ひとりの生徒が抱えている問題を共に考え、支援することができた。ただ、生徒が抱える問題は多様であり、その解決も長期的な取り組みを必要としているものがある。それだけに、教員の生徒理解力・対応力をたかめるための研鑽が求められる。

⑦進路指導の充実

進路指導部を中心に情報提供やガイダンスを行い、生徒の進路目標の設定やその実現に向けて支援することができた。個々の生徒の進路課題や目標は多様であるので、担任を中心として相談力や助言力を高めたい。

⑧教員の資質向上

学校として研修の機会を積極的に設ける、また個々の教員が研鑽に励もうとする環境を整える必要がある。教務部を中心に、研修の機会を増やし互いの意見交換や理解・経験の共有ができる場を設け、今後さらに学校全体の教育力の向上につなげたい。

■評価の集計と分析

1. 学校運営

評価の観点	評価項目	設 問	H20 評価	H21 評価	H22 評価	H23 評価
私学の 独自性	建学の精神について	建学の精神『報恩感謝 尊敬される人間の育成』を教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行っている。	3.6	4.0	3.9	3.9
	教育方針について	教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」を教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行っている。	3.5	3.9	3.8	3.8
教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程の編成は学習指導要領に沿っている。	4.3	4.3	4.3	4.3
	教科の教育計画について	年間を通じた教育計画を教科別に立て、シラバスに沿って指導している。	3.8	3.9	4.0	4.0
教職員 連携	教員・教科間連携状況	教育課題について教員間で日常的によく話し合っ、教育活動が行われている。	3.3	3.6	3.8	3.7
	会議の有効性	職員会議・学年会議をはじめ各種会議・委員会が、情報交換と課題検討の場として有効かつ効率的に機能している。	3.3	3.3	3.4	3.5
財務関係	教育の充実と 経費節減に関する意識	私学経営の財務状況に関心を持ち、学園の発展をめざして教育活動の充実を図っている。	3.6	3.7	3.6	3.7
		経費の節減や教育活動と財務との均衡のあり方を考えて、学校経営を行っている。	3.6	3.6	3.6	3.6
情報公開	ホームページの活用状況	学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開をしている。	4.1	4.0	3.9	3.8
危機管理	危機管理対応状況	危機管理マニュアルを作成し非常時の役割を分担している。	3.6	3.7	3.6	3.4
		緊急時に備え、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とっている。	3.7	4.0	3.9	3.9

<コメント>

(1) 建学の精神

建学の精神をよく理解し、折りあるごとに想起している。今年度より建学の精神、教育方針をふまえた教育活動を一層強化して展開することとしたので、日常の教育場面に即してさらに浸透させていくことを心がけたい。

(2) 教育方針

創立以来の教育方針にそって教育目標が立てられ教育活動を実践している。理念は教育の現場でこそ実践されなければならない。さらに日常の教育活動の中に教育方針を浸透させていきたい。

(3) 教育課程

学習指導要領をふまえ、各コースの特色とカリキュラムに沿って指導にあたっている。学習指導要領の理念も十分にふまえて実践することが大切である。昨年と同様に高い評価となっている。

(4) 教育計画

年間の教育計画を立てて指導にあたっているが、生徒の関心・意欲や理解に即したものとなっているか見直す必要もある。授業や活動の現状を見つめ、問題点を改善していかなければならない。

(5) 教員連携

教育課題について、教師間の相互理解と協力の大切さを認識して取り組んでいる。昨年大幅に改善されたものが 0.1 評価が下がった。さらなる教師間のチームワークが一層強化されなくてはならない。

(6) 会議の有効性

昨年より 0.1 上昇し平均的な水準値となった。明確な計画と実行に結びつけるよう努める。常に教育課題を意識しつつ課題の優先順位、連絡と協議の区別等をふまえ、さらに実のある協議・会議運営を行ないたい。

(7) 私学経営

経営と教育のバランスについて多くの教員が意識しているが、経営や財務と教育活動を直接結び付けて活動することは難しい。教員は生徒指導や教育課題に重点を置かざるを得ない。

(8) 財務経費節減

私学の教員として学校経営という視点を持ち経費節減に努めつつ教育活動にあたるのが大切である。教員は教育の質を高めることが経営の安定につながると理解して教育にあたっている。

(9) 学校HP

学校の情報公開は進みつつあり、教育活動や学校の情報はほぼ伝達されている。具体的な教育実践を盛り込むなど、さらに情報内容を充実させ、学校と保護者・地域の理解と連携を深めるのが大切である。

(10) 危機管理

危機管理には自然災害・火事などの防災や対人的な防犯や保健衛生に係わるものなどがある。防災教育委員会を発足させ、マニュアルの見直しを進め役割分担をより明確にするなど安全・安心な学校をめざしている。

(11) 安全対策

危機管理や安全について、その対応が学校において重要であるとの認識を教職員が日頃から持つことが大切である。公的機関との連携のもと防災訓練・A E D 講習などを安全対策として実施している。

2. 教育内容

評価の観点	評価項目	設 問	H20 評価	H21 評価	H22 評価	H23 評価
教科指導	学習指導	授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行っている。	3.9	4.1	4.1	3.9
		生徒の学習意欲を高め、学力を向上させる授業を実践している。	3.7	4.2	4.2	4.1
	授業環境について	授業を受ける基本的な態度・マナーを身につけさせ、落ち着いた雰囲気指導している。	3.5	3.7	3.7	3.6
情報教育	情報能力育成	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	3.5	3.7	3.6	3.6
	情報モラル教育	情報発信に伴う責任など、情報モラルの教育に取り組んでいる。	3.6	3.6	3.8	3.7
人権教育	人権教育体制	周囲の人を尊重し、より良い人間関係を築いていく態度を養う教育を実践している。	3.9	4.2	4.2	4.0
		人権にかかわる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践している。	3.6	3.9	3.9	3.8

環境教育	実践的態度の育成	自然を大切にすると環境を保全しようとする態度を育てている。	3.1	3.6	3.6	3.3
保健教育	保健・健康に関する指導について	心身共に健康で安全な生活を送るための行動や態度を養っている。	3.8	4.1	3.9	3.9
生徒会活動	生徒会活動支援状況	文化祭・体育会などの生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	4.3	4.2	4.4	4.3
その他	読書推進	図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。	2.8	2.8	3.0	2.6
	国際理解	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	3.8	3.5	3.8	3.6

<コメント>

(12) 学習指導

基礎基本を理解させるために分かりやすい授業を実践しようと努力しているが、生徒の評価は上がっていないことから、学習指導の在り方について授業技術の向上など一層の努力と工夫が求められる。

(13) 学習意欲向上

学習内容に興味・関心をもち意欲を高めさせ、学力を向上させようと努力している。教員評価は昨年より 0.1 ポイント下がっている。生徒評価は前年並みであるが、より具体的な対策が求められる。

(14) 授業環境

授業を受けるのにふさわしい基本的態度を身につけさせ落ち着いた教室環境を整備していこうと指導している。「礼儀と品性」に基づく規律ある授業環境作りに努める。

(15) 情報活用能力

学校生活や社会生活においても必要な情報活用能力の育成について、一定の成果は見られるが、情報科における授業の充実を図るなどさらに十分な成果をあげスキルアップできることが今後の課題である。

(16) 情報モラル

昨年度より 0.2 ポイント上昇しているが、今後ともパソコンや携帯電話の誤った使用や人を傷つけるような発信に対する指導・対策が求められる。人権教育の観点からも適切な指導が必要である。

(17) 人間関係

周囲の人を尊重し、友人関係を大切にし周囲の人たちと良好な関係を築くことの大切さを日常生活のなかでよく指導しているが、その精神が浸透しつつある。

(18) 人権意識

人権意識を高め、周囲の人を尊重し、差別をなくそうとする態度を養う指導が行われている。良好な人間関係を築き、より良い社会を目指すために正しい判断力と行動力を育てたい。

(19) 環境保全態度

環境問題に対する興味・関心を高め、それに必要な知識・態度を習得させ、生徒が主体的に活動ができるよう授業や活動を通して育成していかなければならないが、まだ十分な取り組みが行われていない。

(20) 心身の健康

心身の健康教育は、保健体育科・保健室・相談室などを通して指導・啓発を行っており、生徒に対して人間関係にかかわる悩みや心のケアなどの面で積極的にサポートしている。

(21) 生徒会活動

生徒会の自主的な活動に対して積極的に支援している。スポーツ大会・文化祭・体育会など生徒会が中心となる行事が活発に行われており、教育方針の「実行から学べ」「明朗と自主」を実践している。

(22) 図書館利用

図書館は充実した書籍を揃え読書や学習にふさわしい環境ではあるが、生徒の利用状況は芳しくない。生徒が関心を持ちやすい図書を置き、図書だよりを発行するなど利用の啓発に努める。

(23) 国際理解

友好校との相互交流や留学の実施、選択科目に国際理解を取り入れるなど、異文化理解を推進する取り組みは一部で十分な成果を挙げている。全体に、広く国際的な視野を持つこと、違いを理解し異文化を受け容れ

などの推進は、まだ十分とは言えない。

3. 生徒指導・支援

評価の観点	評価項目	設 問	H20 評価	H21 評価	H22 評価	H23 評価
生徒指導	生活指導について	生活の基本である時間を守るという指導を行っている。	4.1	4.2	4.3	4.2
		挨拶をはじめとして、礼儀を重んじる生活態度を養う指導を行っている。	4.1	4.3	4.2	4.2
		服装・頭髪・持ち物など生活面での規則・ルールを理解させ守らせている。	3.8	4.0	4.0	3.9
		生徒に清掃、校内美化に取り組むよう指導している。	4.1	4.2	4.0	3.9
	家庭との連携状況	家庭と学校との協力と連携のもとに生徒指導を行っている。	4.4	4.3	4.2	4.2
生徒支援	学習支援について	学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行っている。	3.9	3.8	4.1	4.0
	カウンセリング マインド	生徒が抱えている問題に対して、一人ひとりを大切にしたいきめ細かい相談・指導を行っている。	4.0	4.1	4.2	4.0
	進路指導について	生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ガイダンスなどの進路指導を実施している。	4.1	4.1	4.3	4.2
		個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行っている。	4.1	4.2	4.3	4.1
	内部進学について	学園の短大や大学への進学を希望する生徒には積極的に支援している。	4.6	4.5	4.6	4.5

<コメント>

(24) 時間を守る

規律ある生活、時間を守ることの大切さについて熱心に指導している。何より学校生活が楽しく目標のあるものにすることが遅刻を減らすことにつながると理解して指導している。

(25) 挨拶と礼儀

教育方針「礼儀と品性」をかかげ、朝の挨拶運動や教室・廊下での挨拶などを実行している。より良い人間関係づくりに挨拶の励行は欠かせない。挨拶の輪を広げ、さらに基本的な礼儀・マナーを身につけさせたい。

(26) 服装頭髪

規則を守れない事例は減少してはいるが、まだ改善の余地はある。生活指導は地道に粘り強く継続して実施したい。生徒が自主的に規律ある態度をとってくれるようさらに指導していきたい。

(27) 校内美化

美しく整理・整頓された教室でこそ落ち着いた学習も可能となり、また生活面も人間関係も良好なものとなる。生活指導の基本でもある環境美化活動に今後とも力を入れて指導していきたい。

(28) 家庭の協力

生徒指導に関して家庭との連携は電話・家庭訪問・懇談会などで、ある程度実現できている。生徒の気になる面も、日常的に家庭と連携・協力して、課題を早期に発見し、より良い指導を積み重ねていきたい。

(29) 学習支援

学習の苦手な生徒、遅れている生徒に、放課後基礎学習を開講するなどきめ細かくていねいに指導するよう心がけている。個々の生徒に対し、さらにいき届いた指導ができるよう改善を進めたい。

(30) カウンセリングマインド

一人ひとりが抱えている問題に目を向け、きめ細かく声をかけ、相談に当たろうとしている。担任・養護教諭・カウンセラーなどが連携して生徒を支えるように心がけている。

(31) 進路指導

進路情報の提供やガイダンスを実施し、将来の目標を決めるための判断材料を提供したり、見学・体験・相談の機会を設けるなど、学年・時期に応じて適切な指導を行っている。

(32) 進路相談

進路目標を決めかねているときや、不安を感じているときなど、生徒の個性に応じて相談にのり適切な指導

をしている。教育方針「個性の尊重」をふまえ、さらにきめ細かく、親身になって丁寧にサポートしていきたい。

(33) 内部進学

高短、高大の連携強化を図り、生徒が短大・大学の教育内容に触れ、それを参考に進路目標決定の一助にしてもらう取り組みを行っている。生徒の個性・適性をふまえて指導を行っている。

4. 教員研修・資質向上

評価の観点	評価項目	設 問	H20 評価	H21 評価	H22 評価	H23 評価
教員研修	教員の資質向上について	教員間で授業内容を評価したり、生徒指導のあり方等、指導方法について意見交換などを行う機会がある。	3.0	3.0	3.2	2.9
	校内研修	教育問題や生徒理解、人権教育等、効果的な校内研修計画を立案し、計画的に教職員の研修を実施している。	3.3	3.3	3.6	3.2
	研修成果の共有状況	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制が整理されている。	2.9	2.8	3.4	3.0

<コメント>

(34) 教員間の意見交換

教員が相互に学びあうことは、個々が仕事に追われているなどの理由で、まだ十分な機会を提供できていない。教員の資質を高めより良い教育実践のために、話し合いや経験交流の機会を設けたい。

(35) 校内研修計画

校内研修は定期的実施しているが、研修のあり方や内容については改善の余地がある。資質向上に資する内容を計画し教員一人ひとりが満足できるよう実りあるものにしたい。

(36) 研修報告

教員が自ら研鑽に励み資質の向上を図ることは大切である。また教員が研修したことを報告し共有することも大切ではあるが、まだ十分とは言えない。さらに学びあう環境づくりをすすめていきたい。

■今後の改善方策と学校運営

本校が掲げている教育の重点目標は、今日の学校教育において、また将来の社会を担う若者の育成という観点においても大切なものと考えている。それらの目標を実現し、その成果をあげるためには、より明確な指導計画と実践方策を打ち立てなければならない。

教科における学習指導、校務分掌における生徒指導や進路指導、学級・学年における生徒支援等について、指導方法の改善や支援体制の整備、指導力や資質の向上のための研修の充実などに取り組まなくてはならない。

教育課題を解決していくためには、学校の運営体制を整備し、教育方針や教育目標の共有と教員の連携・協力を一層推進していく必要がある。また、組織や委員会の機能を活性化させ会議運営のあり方を改善するなど、課題の解決に向けて意欲的に取り組み、その成果をより実りあるものにしていかなければならない。

■まとめ

【学校評価の目的と意義】

この学校評価は、教員による自己評価にもとづくものである。自己評価を行うことによって、教員が本校の教育方針・教育目標を再認識し、それらを自覚しつつ日常の教育活動のあり方を振り返り、さらにより良い実践に取り組もうとする意欲を高めことができ、全体として学校組織を活性化させ、教育活動の一層の充実を図る契機となっている。

学校評価の結果とその分析を通して、本校の教育活動が成果を挙げつつある分野と、そうでない分野があ

ることを認識し、どこに課題があるのか、次年度どの分野に重点目標をおいて、どのような対策や教育計画を立てればよいかということが明確になってくる。これらをふまえて本校の教育力をさらに向上させたい。

【学校の教育力向上】

学校教育を支える根幹はやはり一人ひとりの教員である。生徒に愛情を持って接し、生徒を成長させるのは教員である。したがって、教育内容の充実を図るうえで何よりも大切なことは、教員が自ら指導力と資質の向上を図り、教員間の連携を一層強化することである。そのチームワークの総和こそが学校の教育力となり、発展の原動力となる。

良い教育の実践こそ最良の募集対策であり、保護者や地域社会の要望に応えられる教育を行うことが学校の発展につながるという観点から、一層教育の改善と健全で発展的な学校運営を進めていきたい。

以 上